

蜂印香蜜葡萄酒



蜂印 香蜜葡萄酒は多量の滋養分を含有し飲で其味の佳美を覺へ之れを日常の飲料とせば氣血の循環を能くし精神を活潑にし身軀健康に偉大の裨益を與ふる内外無比の飲料なり

蜂印 香蜜葡萄酒は惡疫其他の病因を排除し殊に病後の恢復期に特効あり故に強壯者病弱者を問はず常に欠く可からざる内外無比の飲料なり

蜂印 香蜜葡萄酒は内外の博覽會に於て無上の名譽ある數多の賞牌を受領し其名聲天下に隠れなく品質の純良なる實に内外無比の飲料なり

蜂印 香蜜葡萄酒の軀裁に紛らはしき品質粗惡の類似品諸方にあり獨り本品の名譽を毀くるのみならず衛生を傷ふること少からず依て蜂の商標と賣捌元近藤利兵衛の名譽を篤と御注意あれ

蜂印 香蜜葡萄酒の販路は頗る廣くして内地は如何なる山間僻地にも普及し海外にては支那、朝鮮、印度地方及び南洋諸島にも販賣店あり

賣捌元 東京市日本橋區本町二丁目九番地 洋酒問屋 近藤利兵衛

太陽

明治二十九年五月十日發行

第貳拾號

日曜及祭日	
十月	十一日
十八日	二十五日
十七日	神嘗祭

政治

立憲的專制國

尾崎行雄

憲法あり、議會あり、制度文物、粲然として、紙上に備具するを見れば、純然たる立憲君主國なるが如しと雖ども、事の實際に就て、政府の施爲、人民の言行を調査すれば、依然として有司專制國の故態を存するものは我が日本帝國に非ずや。

憲法ありと雖も、朝野未だ之を視て、神聖犯す可らざる者とは爲さず、動もすれば則ち之に違背す。故に其効用素より全きとを得ず。議會ありと雖も、政府は其議決を重んぜず、又懲罰的解散を妄行す。而して人民は啻に之に憤激せざるのみならず。却て議員の、政府

に盲從せざるを咎むるに至る。嗚呼朝野官民の立憲的思想に乏しきと、凡そ此の如し。國會開設せられて、既に六星霜を關すと雖も、未だ功業の見るべきもの有らざるは、蓋し怪むに足らざるなり。

法律上に於てこそ、人民は政府の奴隸に非ずと雖も、道徳上に於ては、純然たる奴隸なり。此奴隸や他より強迫束縛せられたる奴隸に非ずして、自ら進んで心折悦服したる精神的奴隸なり。南亞の奴隸は、苟も覺醒あれば、直ちに之に乗じて、其自由に回復せんとを謀る。雖も、我が帝國人民は憲法々律を以て自由と權利を許與せられ乍ら、毫も獨立自由の思想を發揮せず、唯だ官吏の爲す所を是れ模倣す。

帝國人民は、政府を視て、神佛以上の神通力を有すと認信す。故に神佛に向ては、人の智愚善惡を顛倒し得べしとの信用を置かずと雖も、政府に向ては、則ち此

信用を置く。見よ如何なる愚人と雖も、久しく政府に在れば、人民則ち智者識者として、之を崇敬するに非ずや。見よ如何なる悪人と雖も、久しく官祿に衣食すれば、人民則ち之を信尊して、善人君子と爲すに非ずや。今の府縣知事中には、石坂昌孝氏に劣るの人物甚だ少なからず。然れども彼等は久しく租税に衣食せるが爲め、人民の崇敬を受け、石坂氏は自己の資産に衣食し、私費を抛て國事に奔走せるが爲め、人民の侮蔑する所と爲り、就職後未だ一事を爲さざるに方て、既に管下人民の排斥運動を被れり。是れ帝國人民が、其政府及び官吏を尊信すると、遠く神佛に過るの確證なり。租税を消費(多くは浪費)して、人民を困苦せしむる者は、其崇拜を受け、自己の生命財産を犠牲に供して、人民の利益幸福を企圖する者は、其侮蔑を受く。是れ人間有り得可らざるの怪事なるが如しと雖も、帝國の現狀實に此の如くなるを如何せん。

帝國人民の政府を尊信すると、遠く神佛に過くと云はば、人皆之を怪むと雖も、冷酷なる事實は、更に是より甚だしき者あるを證明す。此狂亂的信仰を有するは、常に尋常普通の人民に止らず、一代の智者識者先導者を以て、自ら任する者も亦此の如し。新聞雜誌の

記事論說、日として之を證明せざるはなし。政府の爲す所は、如何なる惡業も總て善事と爲り、反對黨の爲す所は、如何なる善事も悉く惡業と爲る。帝國人民多數の意思實に此の如し、故に自由黨は政府に降服せるが爲めに、其黨員自ら増加し、國民協會は其決議案を撤回し、反覆無耻の舉動を爲せるが爲め、新たに加盟者を得たり。何ぞ獨り遼東を失亡して、爵祿を進められたる伊藤氏を怪まん。

政府は古來 皇帝の政府なりしと雖も、帝國人民の目を以て之を見れば、政府は常に 帝室よりも尊きが如し。故に逆賊足利氏と雖も、政權を掌握すれば、帝室に超過する所の精神的服従を、舉國人民より受け、身を奴僕より起せる豊臣氏と雖も、 帝室以上の尊敬を、當時の人民より受け、三河の賤民徳川氏と雖も、朝廷を無視して主權を僭竊すると、幾と三百年の久しきに及ぶを得たり。北條に事へ、足利を戴き、徳川を崇拜したるの人民も、尙ほ勤王心に富めりと云ふとを得べき乎。此輩に勤王心ありとせば、恐らくは盜賊の道德心、藝娼妓の貞操心と、其類を同うせん。余は此の如く痛説して同胞の缺短を擧るを好まずと雖も、之を擧げざれば、之を補正する能はず。况や誤解は失敗

の原由にして、無根の自負は、常に退却の所因なるをや。眞に國家を愛する者は、時有て苦口の良藥を進めざる可らず。

我が同胞に、愛國心ありや。此疑問を解んと欲せば、先づ我が同胞は日本なる者を知るや否やを査定せざる可らず。戰亂暗黒時代は云ふに及ばず、下て徳川の治世に至るも、我が同胞の百中九十九は、武藏相模の如き邦國六十有餘箇有て、互に敵視するを知れるのみ。否な六十餘國は、各々更に幾箇の侯伯に分領せられ、各領皆な仇敵なるとを知らるのみ。所謂敵國外寇

なる者は、隣郡若くは隣縣の領主なるとを知らるのみ。忠愛の思想は、領主と郡縣とに對て發動したるに過ぎず。今を去る僅に二十餘年前、廢藩置縣後までは、全國人民皆な此の如き境遇と智識との内に生死せるなり。此輩は唯だ領主あるを知て、未だ帝室あるを知らず。唯だ侯伯の領土あるを知て、未だ日本國あるを知らざりしなり。全然未知の物體に向ては、何等の志念をも生ずべき理なし。故に今を去る二十餘年前までは、帝國人民の大多數は、愛郷心あるも、愛國心なかりしと明けし。

今日の人民は、忠君愛國の心ある乎。余は「無し」と云ふと能はざると同時に、又「之に富めり」と云ふとを得ず。何となれば今日の人民は、多くは是れ二十有餘年以前に生長したる者なればなり。皇帝あり國家あるとを知らざるの天地に生長し、其感化教育を受けたる人民は、二十餘年の日月間に於て、僅に之れあることを知るすら、容易の業に非ず。况や之に對して忠愛の志念を發動するに於てをや。今日既に眞誠なる忠愛の志念を發動したる者は、全國人民中の一小部分に過ぎざるべし。

帝室と政府との區別すら解せざる者は、勤王心あるべきの理なく、郡縣と國家との區別すら知らざる者は、愛國心あるべきの理なし。而して此區別すら解知せざるもの、帝國人民の大多數を占む。政府に奴隸仕するを以て、忠愛の本事と誤解する者多きは、蓋し怪むに足らず。

帝國人民は、政府に對しては精神的奴隸なり。故に政府に勤務する官吏の言行は、常に人民の模範と爲り。其命令は、是非善惡を問はず、悉く神託以上の効力を有す。官吏酒色に耽れば、人民も亦酒色に耽り、官吏骨牌を弄すれば、人民も亦骨牌を弄し、官吏驕奢なれば、人民も亦驕奢に赴き、官吏懶惰なれば、人民も亦懶

情に流れ、官吏舞へば人民も舞ひ、官吏歌へば人民も歌ふ。

明治の初年に在ては、政府頻りに人民の智識を開發するに勉めたり。然るに明治十六年の交人民の政治思想少しく發達して、政黨四方に勃興するや、政府は秦皇の故智を學んで、黔首を愚にするの政策を施せり。言論出版の自由を箝制し、新聞雜誌の遞送料を増加し、三萬の官吏に號令して、口を極めて政治論を読み、若くは爲す者を嘲罵擯斥せしめたるが如きは、其手段の一斑なりき。

從來は好んで政治經濟歴史等の書を読み、慷慨淋漓以て時事を談論せる者も、此政策の爲めに、漸く謠曲義太夫等の書を研究するに至り、従前は新聞を取れば、先づ其論説を讀める者も、此政策の爲めに、先づ新聞痴話に着眼するに至れり。其言に曰く「議論は拙陋にして、見るに足らず。我が知れる高等官にして、新聞の論説を讀む者なし」と。地方紳士にして此の如き意見を抱き、言説を爲す者、今日と雖も尙は十中の八九を占む。彼等は唯だ官吏之を讀まず、否な讀まざる眞似するが故に、新聞の論説は讀むに足らずと確信して、己れも亦之を讀まざるのみ。精神的奴隸の言行、太だ

奇なりと云ふべし。

未だ人間普通の智識を有せず、世界五強國の名すら知らざる地方紳士に取ては、新聞の記事論説は、智識開發の効用多き者はあらず。然るに官吏之を嘲罵すれば、己れも亦之を嘲罵して、此容易に受け得べき利益を拒絶す。何ぞ圖らん、口に新聞を嘲罵するの官吏は、心中最も之を畏憚し、新聞の記事論説に向て、深密の注意を加ふるの徒輩なるとを。發行停止の如き不法無理の法律、今に至て尙ほ改正せられざるは、官吏畢竟新聞を畏憚するが爲めなり。畏憚は輕蔑に異なり。然るに心中深く之を畏憚しながら、口頭僅に之を輕蔑すれば、人民は唯だ官吏の口舌を信じて、智識開發の源泉たる新聞雜誌を輕侮擯斥し、自ら好んで無智蒙昧の人と爲る。豈に憫むべきの極に非ずや。

獨立自主の氣象ある人民に非ずんば、立憲政體を受用し、之をして其功用を全うせしむる能はず。然るに帝國人民は精神的奴隸にして、官吏を尊信すると、遠く神佛に過ぐ。是れ立憲の假面の下に有司專制の事實を見る所以なり。

一般の智識に富み、特に政治思想に富める人民に非ずんば、立憲政體を受用し、之をして其功用を全うせし

むる能はず。然るに帝國人民の無智無識にして、政治思想に乏しきと、實に驚くべき者あり。是れ憲法あり、議會ありと雖も、有司專制の事實尙は嚴然として行はる、所以なり。

世間或は帝國人民の無智無識を信ぜざる者ありと雖も、智識開發の機關如何に缺乏する乎を一見せば、忽ち其迷誤を悟るを得べし。凡そ智識開發の機關中、最も有力なるは新聞、雜誌、書籍、講談、演説、學校、通信、旅行、會話、討論、書籍館、博物館、公會堂等に外ならず。然るに我が帝國に在ては、此等諸機關の整備、皆な歐米優等國の十分一に及ばず。故に單に此點より推せば、智識の發達の速力も亦歐米諸國の十分一に過ぎざるの理なり。

帝國に在ては、大新聞にして、二萬以上の讀者を有する者なしと雖も、歐米諸國には二三十萬の讀者を有する者太だ多し。且つ新聞紙の種類も、亦帝國に數倍乃至數十倍す。

雜誌書籍の發兌及び其印刷高も、亦帝國に數十倍す。書籍館、博物館、繪畫館、公會堂の如きは、我に幾十倍すべきを知らず。況や講談、演説、學校、通信、旅行等に於てをや。是れ帝國人民の智識は、其進歩極て遲緩

ならざるを得ざる所以なり。開國通交後既に四十の春秋を閱すと雖も、未だ一發明一著書の、以て世界に傳ふべき者あらざるは、我が智識界の進歩極て遲緩なることを證するに足れり。況や人民の大多數は、未だ立憲政體の何者たるを知らざるに於てをや。聊か帝國憲法を解する者は、全國人民の千分の一にも足らざるべし。

智識は成功の一大原素なり。兵戰と雖も、智識ある兵卒は、常に智識なき者に勝つ(他の事情形勢相ひ同じければ)況や商戰工戰農戰學戰に於てをや。而して是れ皆な國家の強弱貧富盛衰の由て判るゝ所なり。然るに帝國人民の智識は、遠く歐米諸國の人民に劣下するのみならず、智識増殖の機關大に缺乏するが故、歐米諸國に倍蓰するの熱心を以て、盛んに之を備具するに非ずんば、將來と雖も、永く諸國の人民に追及する能はざるべし。之を凌駕するが如きは、思ひも寄らず。

今日の智識機關を以て、歐米諸國に追及せんと欲するは、猶ほ牛に鞭て、汽車を追ふが如し、

左れば大に智識増殖の諸機關を整備するは、方今の一大急務にして、大に之を整備するに非ずんば、立憲政體を完成する能はざるは言を待たず、富國強兵の實も

亦之を擧る能はざるなり。

第一、言論出版集會の自由を擴張せざる可らず。

第二、大に新聞雜誌書籍の郵税を輕減せざる可らず。

是れ智識に對する課税なり。

第三、大に書籍館、博物館、繪畫館、公會堂を増設せざる可らず。

第四、學者を優待し、學業を獎勵せざる可らず。帝室と政府より其模範を布くを要す。

第五、政府は人民を勸誘して、書籍雜誌新聞等を購讀せしめざる可らず。從來は政府頻りに之を妨碍したり。

第六、盛に女子教育を獎勵せざる可らず。

第七、大に諸般の講談會を増加せざる可らず。

第八、官吏中の智識ある者は、講談會に出席するを以て其榮譽を爲すの氣風を養成せざる可らず。

第九、政務官は、皆な公衆に向て、國是政策を演説せざる可らず。

第十、縉士にして議論に長する者は、社會に擯斥せられ、謠曲、舞蹈、義太夫等に長する者は、之に歡迎せらるゝの陋習を打破せざる可らず。

此の如き精神を以て、國民を教育すると、十年に及ばば、無智無識にして、政府の精神的奴隸たる帝國人民

を一變して、智識あり獨立心ある立憲的人民と爲すとを得べき乎。此に至て、國家の富強隆盛得て望むべく、立憲政體の完成得て望むべし。人民の智識感情にして、依然今日の如くなる間は、到底有司專制の陋態を蟬脱する能はず、商事産業學藝の隆興を見る能はず。實に歐米諸國を凌駕する能はざるのみならず、到底之に追及する能はざるや必せり。

教育制度の刷新を望む

寺尾亨

今人口を開けば輒ち曰ふ、我國刻下の急務は外交と財政とに在り、二者苟くも其宜しきを得んか、以て國權を伸暢し以て國富を増殖するを得べしと。此を以て世人概ね此二者に重きを置き、當路者に堪能なる人物を得て、以て帝國の興隆を望むや切なり。余輩亦之を思はざるに非ず、然れども我國の急務は單に外交と財政とに限られざるを信するなり。

松方伯總理大臣を以て大藏を兼ね、大隈伯進んで外務の椅子に倚る。現時財政を整理し外政を處辨する者世上其人に乏しく、兩伯を措て復其適任者を見出すや難

し。况んや兩伯の才幹力量は夙に中外に喧傳せらるゝ所、巧に目下の難局を切り抜け、反對者をして毫も非議する所なからしむるに至るや蓋し疑なかるべし。されど一國の要務は茲に盡きたりといふは不可なり。抑も國家の當然爲すべきの要務は内治外交其數二三にして足らずと雖も之を遂行せんには猶一人一家の場合に於けるが如く必ずや財力と智力とに俟たざるべからず。財力の一國に必要な余輩復讐々の辯を費すを須ひず、内政の事、外交の事一として財力を要せざるものあるか、國家の隆昌なる所以、外交の強硬なる所以概ね繫りて此に在り。然りと雖も財力を以て國家隆盛の唯一要素とするは畢竟迂腐の見たるを免れず。余輩は之と相並んで智力の必要を認めざるべからず。我國今日外交の振はざる必ずしも我財力の歐米諸國に比して劣等なるが爲めに非ず、要は當路者其人を得ず、外交的智識の豊富ならざるに依るのみ。苟くも當路者にして斗大の豪膽を有し、外國の機微を察し、變に處して駭かず、事に當りて動ぜずんば強鷲猛獅亦何の恐る所ぞ、要するに今日の外交家たるものは概ね外交上の智識に乏しく、諸外國の活動勢を熟知せざるが爲め、一朝事あるに際して狼狽踴阻其爲す所を知らざるもの

比々皆是なり。曩の日清戰爭に於て我國が清國を制して其鼻梁を挫きたるもの、亦我財力の彼れに比して肯て優れりとするに非ず、其原因固より種々あらん、然れども余輩が見て以て一大原因となすべきものは我將校士卒の勇武なるが上に、泰西兵學的智識を運用すること巧に、戰略武器彼れに比して數等の上に在りしが爲なり。則ち知る智力の國家に必要な決して財力の下に在らざるべきを。

或は曰く金は萬事の基なり、人唯富を擁す、愚者亦忽ちに化して智者となると。然り或程度までは論者の言亦強ち眞理ならずとせず、然れども富者果して眞の智者なるか、論者苟くも我國の今日を熟察すれば以て之が反對の現象を呈するを見ん。世間目して智識の倉庫とせる學者の如きは概ね貧困に終り、豪商豪農若くは華族の如きは智識の點に於ては一般人民に劣れるもの多きに關はらず、皆豪華を銜うて飽くまで歡樂を極む。果して然らば富者必ずしも智ならず、貧者必ずしも愚ならざるの理は自から明々白々の事たるべし。况んや又富を得るの道は智力に負ふ所尠少なからざるに於てをや。岩崎氏が我邦空前の富豪となりたる者一は氏が聰明にして機先を制したると又能く川田莊田等の有識者